

第13回川崎市文化芸術振興会議部会（摘録）

- 1 会議名 川崎市文化芸術振興会議部会
- 2 日時 平成24年5月30日（水） 17時から19時
- 3 場所 政策研究大学院大学8階コモンルーム
- 4 出席者
 - (1) 委員 澤井委員（会長）、垣内委員（副会長）、林委員（グループ長）
 - (2) 事務局 市民・子ども局市民文化室
中島室長、大坪課長、石床担当係長、沼田職員
- 5 議題
 - (1) 今後のアセスメントのスケジュール及び評価手法について
 - (2) 平成23年度文化アセスメントの評価作成について
 - ①岡本太郎美術館について
 - ②ガラス工芸振興事業について
 - (3) 平成24年度文化アセスメントの対象事業の絞込みについて
- 6 公開・非公開の別 公開
- 7 傍聴者 0名

【審議内容】

事務局 委員3名の出席により、会議が成立した旨を確認。澤井会長に議長をお願いする。

議長 それでは最初の議題、今後のアセスメントのスケジュール及び評価手法について事務局より説明をお願いしたい。

事務局 昨年度の振興会議の運営及びアセスメントの実施を振り返り、問題点等を踏まえて今年度の会議運営等について、次のとおり説明及び提案をさせていただきたい。

1つ目として、昨年度は公開対象でない会議により議事の多くが進められ、結果、会議の情報が各委員に行き渡らなかった。今年度のアセスメントにおいては、原則、公開会議である振興会議及び部会にて運営する。評価の準備段階で行われるグループ会議などの公開対象ではない会議については、参加していない委員に会議の摘録や資料等を速やかに作成、送付することにより、委員間の情報共有をはかりたい。また、部会やグループ会議などの委員全員が参加対象でない会議については、事前に会議資料を全委員に送付し、意見等を事務局が集約したうえで会議に提案することにより、多くの委員の意見を反映できる形を作りたい。

続いて、新年度アセスメント選定についてであるが、これについては本日の部会で対象を絞り込んだうえで、7月上旬に予定している次回振興会議で決定したい。25年度アセスメント対象事業については、12月、1月頃から情報提供し、3月末頃の振興会議にて対象を決定する。

次に、評価の手順であるが、フィールドワークの内容をグループ毎に取りまとめ、その内容を部会・振興会議にてまとめていく形を提案したい。なお、これに

については、別紙事前意見のとおり、委員より、グループ毎のアセスメントではなく、評価については全員で行なうべきとの意見が寄せられているため、部会及び振興会議で審議いただきたい。

最後に、委員からの事前意見にもあるが、過去に行なったアセスメント提言内容のその後の検証が必要と考えている。提言が行なわれた翌年の秋以降の振興会議に提言の反映状況について中間報告を行い、その翌年度の振興会議において再報告を行なうような形で提言の反映状況を検証していきたい。また、現在の振興計画においては、アセスメント実施結果の検証等については明確に記されておらず、こういった仕組の作成も次期振興計画における課題と考えている。

議長 議題1に対する、委員の事前意見について。アセスメント提言内容のその後の検証については、今のように対応いただけるということで良いかと思う。

もう1つ、グループ分けについてだが、アセスを始める時に、1つは委員の時間的な制約、そしてもう1つは、より専門的な部分をアセスメントするためという理由で2グループに分けた経緯がある。当時の委員の意見としてはそうであったが、希望する委員はA B両方登録するなどの考え方もあるかと思う。

垣内委員 やる気をもっていただいている方を、なるべく活かせるような仕組を考えたい。部会についても、参加していただけるのであれば歓迎したい。

林委員 予算等の制約があるのであれば、オブザーバーという形で部会に参加していただいても良い。

議長 部会としては、意欲のある委員ができるだけ多くの参加機会をもてるよう考えたい。ただし、委員全員が全ての会議に参加するということになると、難しいと思われる。この議題については、次回の振興会議の議事として、全体の意見で決めたい。では、次の議題平成23年度文化アセスメントの評価作成について事務局から説明をお願いしたい。

事務局 今までに委員から寄せられた意見・評価書をまとめた形で報告書のたたき台を作成した。こちらについての検討をお願いしたい。また、岡本太郎美術館より、昨年度の広報内容や事業概要についての資料が、委員より事前意見が提出されており、こちらも参考に審議をお願いしたい。

議長 では、実施報告書たたき台の評価及び提言内容を中心に。

まず、岡本太郎の事業の目的についての取組評価であるが、「…施設の目的は、市の文化施策に合致するとともに」とある。そもそも、目的が何で市の文化施策が何かがこの記述では抽象的であり、より具体的な内容を記載していただきたい。

垣内委員 「生田緑地の価値を総合的に発信していくことが地域全体の底上げにつながると思われ、今後の創意工夫を期待したい。」という部分について。生田緑地の指定管理者導入は1つのチャンスであると思うのだが、創意工夫を期待したいという言葉のみで終わってしまっている。ここは、実際に具体的な提案を入れ込んで欲しい。

林委員 例えば、三館が1つのテーマを元に連携プログラムを行なうなど考えても良い。

垣内委員 フィードバックを求めるのであれば、具体性のある内容を記載することが必要。

議長 続いて、文化芸術性の部分への評価であるが、前段の岡本太郎一本で行くのか、対象を現代アート全般に広げていくのか美術館の今後の方向性を示す必要がある

という部分についてはどうか。

林委員 常設展も岡本太郎、企画展も太郎のゆかりの展示では新しい層は開拓できないのではないかと。

垣内委員 美術館としてはどう進めていきたいのか。例えばキュレーターの意見はどうか。

林委員 キュレーターの意見のヒアリングは必要だが、最終決定は市の運営方針が優先させられるのではないかと。

垣内委員 現場の意見を吸い上げないとキュレーターも動かない。

議長 では、「キュレーター、学芸員の意見を十分に聞いたうえで明確な方向性を示す」とするか。

垣内委員 条例の設置目的はどうなっているか。岡本太郎だけに絞るような内容となっていては動きようがない。

事務局 条例の設置目的については、「岡本太郎を中心とした美術作品及び資料の収集、展示等」となっており、岡本太郎以外のものを除外するものではない。過去にも岡本太郎以外のものを岡本太郎に結びつけた企画展も行なわれている。

林委員 岡本太郎自体幅広いジャンルで活躍しているので、岡本太郎に絡める枠を広げればいろいろな展開ができるだろう。

議長 いずれにせよ、明確な方向性を示すことは重要。では、続いて市民とのかかわり部分。アンケートの反映について、PDCAサイクルを意識して取り組むようにある。主旨は良くわかるが、PDCAを本気でやるのであれば、アンケートなどももっと詳細な内容にしなければとてもPDCAはできない。

垣内委員 あまりにもアンケートが詳細になりすぎると、今度は答えてもらえなくなる。

議長 PDCAと一言で終わらすのではなく、市民へのアンケート内容を測定し、それを次に活かす仕組みを作るといった表現に変えてはどうか。

次の効率・効果については、比較的今まで出た意見が反映されていると思われる。続いて、総合評価と提言についてだが。提言の2番目、「近隣美術大学との連携をより進めるため、コーディネーターやエデュケーターといった学芸員養成をし、そういった活動に振り向けろ」とある。これについてはどうか。

林委員 市外の美大とコラボレートするメリットが美術館にとってどの程度あるか。大学にとっては大きなメリットだが美術館としては負担だけが増えてしまう。美術館にとってのメリットを考えていかねば。

議長 メリットが薄いうえに学芸員の負担が増えてしまうと、提言としてはどんなものか。例えば、近隣美術大学との連携を強化していくぐらいにとどめたほうが良い。

垣内委員 美大にこだわらず、市内には音大もあるので、そこでのコラボなどを考えることはできないか。館内でのコンサートなど。

事務局 実際に、緑地でのコンサートは行なわれている。

議長 いずれにせよ、ここは突っ込んで書きすぎると逆に動けなくなってしまうので、表現をもう少し抽象的に直すということで。

垣内委員 「生田緑地・文化施設」の年間イベントスケジュールをホームページで公表するなどがあるが、あまりにも当り前すぎる内容である。若者の情報源はほとんどがSNSであり、フェイスブックやツイッターなどを通じた発信を検討すべきで

ある。

林委員 世代に応じた発信をしていくべきであろう。

この他の提言において、カフェレストランのメニューなどのバージョンアップなどがあげられているが、実際、直営でない相手にどこまで言えるのか。

議 長 美術館と一体化しているものであり、提言して良いのではないか。

垣内委員 実際に行ったが、椅子なども座り心地が良くなく、メニューも値段に比べていまひとつと感じた。

議 長 では、続いてガラス工芸振興事業について

林委員 自分が担当したのだが、市が何を狙っているのかがよくわからなかった。本当に産業として育成するのであれば、どんな産業でも、もっと投資してお金をかける。また、今のようにバラバラの状態ではなく、集約しないとブランドも生まれにくい。

垣内委員 実際に、数多くというほどの工房が存在するわけではない。集約については、廃校になった学校であったり、工場の跡地であったり。そういった場所を提供することはできないか。

議 長 事業の目的で、「今後の発展のためにも、より長期的かつ具体的なロードマップを作成する必要がある」とあるが、これはアートビジョンではなく、まず、産業振興策のロードマップが必要。そういった基盤が確率しないとブランドの確立はできない。

垣内委員 産業振興と文化とまちづくりを合体して考えていかなければ発展は望めない。文化が持っている施設や空間を提供しつつ、そこに市からのお金が結びついて、そうやって作成したものをミュージアムなどで発表していくといった形でなければ、産業だけでは限界がある。

議 長 その他、文言の修正だが、「他のガラスとの差別化」を、「他地域のガラスとの差別化」に、「700万円という予算規模」という部分も、具体の額は削り、「財政的な支援も弱い」といった文言に修正を。

垣内委員 「即売所的なショールームなどの活動・情報発信のための拠点づくりが必須」とあるが、ショールームは文化と結びつけたほうが良い。興味が無い人は反応しないが、興味のある人の反応はすごくよい。

林委員 例えばミューザ川崎の中などは良い。文化に興味のある人が利用する場所に設置することが重要。

垣内委員 市民ミュージアムなどの美術館は非常に効果的。ミュージアムショップでの取り扱いはあるのか。

事務局 実際に取扱がある。工場夜景のガラスペーパーウェイトなどは、かなり売れたと聞いている。ネット販売も行なわれている。

垣内委員 リクエストを受け付けて制作するようなものもコンスタントな販売が見込める。

議 長 続いて、総合評価の部分だが、「民間企業が中心となって学校を続けてきた」とあるが、「学校」を「人材育成」に修正を。また、「課題に対する具体的な対応策、工程が不明」とあるが、これは行政サイドの具体的な対応策、工程ということで良いか。

続いて提言の部分。「中長期目標への具体的工程表の策定、更に、それに対する

P D C Aの実施」とあるが、P D C Aまでいく段階には至っていない。

垣内委員 その部分に、産業政策としての視点のみではなく、文化やまちづくりと関係づけた中長期目標や工程表の作成が必要であることを入れ込むべき。

議 長 内容については、このあたりで良いと思う。細かい文言の整合性の修正などをしていただき、再提示して欲しい。

続いて議題3、平成24年度アセスメント対象事業の絞込みについて事務局より説明をお願いしたい。

事務局 今回、事務局からは6つの事業について提案させていただいた。簡単な事業内容と提案した理由について説明させていただく。

まず、「音楽のまち・かわさき」多摩区事業。これは、予算規模は390万円と小さいが、今年は区政40周年の記念の年であること、文化事業の地域での展開の仕方をどう行っていくかということで提案した。河川敷で行なう多摩夕涼みコンサートや、地域の有志と作り上げているたま音楽祭などが主な事業である。

次が、映像のまち・かわさき推進事業。これは「映像のまち・かわさきフォーラム」を通した取組み事業であり、イベントの開催などに留まらず、市内小学校での映像制作の取組みによる映像教育の普及など幅広い事業を展開している。

次が、子どもの音楽活動推進事業。今まで行ってきたアセスメントでは、振興計画上の視点「文化振興」に属する事業を中心に選んできた。昨年、初めて異なる視点「文化と経済」からガラス工芸事業を選んでき、今回は新たな視点「文化と教育・青少年」から事業を提案した。公募で集めた児童による、子どもの音楽の祭典事業や、市内の音大生が子どもに指導するジュニア音楽リーダー事業などが行われている。

次が、青少年科学館の運営。今年、リニューアルオープンしたことにより、大きな注目を集めている。今後の方向性等を定める時期にあるとともに、生田緑地の連携等については重要課題であり、提案した。

続いて、日本民家園の運営。青少年科学館と同様、生田緑地に位置し、園内ではむかし話の語りや、むかし遊びなど、年間を通して様々な企画が行なわれていることもあり、提案した。ただ、民家園については、今年度は年間を通じて改修工事が行なわれており、常にどこかが閉鎖中であるという問題もある。

最後に、しあわせを呼ぶコンサート事業。これも区で行なう事業で、予算規模も約270万円と小さいが、多摩区の事業と同様、区で行なう事業ということと、「文化と福祉・医療」という新しい視点であるため、提案した。毎年、区内の障害者施設に通う方々が練習を繰り返し、第九を発表するコンサートを開催している。

また、これらの候補について、委員より事前意見を2ついただいている。1つ目の意見は、区役所ベースではなく、市としての広がりを狙う事業規模の大きな事業であること、生田緑地は市にとって大きな課題であることから、青少年科学館又は民家園及び映像のまち事業を希望するという意見。2つ目は、市の重点実施項目であり、ある程度予算規模の大きいものを選ぶべきという意見が出ている。

議 長 区役所関連事業については、アセスメント発足時から地域ベースの事業を取り上げて欲しいという意見はあった。ただ、あまりにも事業規模が小粒である。区

役所の事業のいくつかを合体して、その中からめぼしいものをピックアップすることができるか。

垣内委員 多摩区の事業については、市の音まちの事業の下にあるという位置づけでよいのか。他の区でも同様に音まちの傘下として行われているということか。

事務局 音まち事業ではあるが、各区役所の地域課題解決予算という枠組みの中でそれぞれ展開している事業であるため、文化室が主導しているというものではない。

議長 2区併せても非常に小さい。全区の事業を合わせるぐらいしないと。ただ、全区の事業を全部見てまわるということも難しい。代表的なものをいくつか見て後は事業報告やアンケート等により検証という形になるか。

垣内委員 いくつかをピックアップしただけで、全体の評価をとというのもなかなか難しい面はある。結局、マネジメントの話になってしまう。

議長 東京交響楽団が今、地域で公演しているが、こういったものは区の音まち事業としてやっているのか。

事務局 文化財団の事業として行われている。

林委員 ある程度、予算規模の大きなインパクトのあるものを対象にしたほうが良い。音楽なら、子どもの音楽活動推進事業のほうが。民家園や青少年は、イベントの予算規模はどの程度なのか。

事務局 民家園は、特に、ボランティアによる活動が大きい。そのため、イベント自体にかけている経費はそこまで大きくない。

林委員 ボランティアが行なっている事業に対して、口出しをしづらい部分はある。

議長 映像のまち・かわさき推進事業については、しんゆり映画祭の支援なども事業に入っているが、またかということにならないか。

事務局 映画祭の支援も活動の一部として行なっているが、事業費にはしんゆり映画祭は入っていない。小学校への映像教育など別の角度からの取組みがメインなる事業である。

議長 小学校の音楽教育と映像のまち推進事業は候補として全体会議にあげることで異論はないと思う。次に、青少年科学館か民家園であるが。

林委員 やはり、ボランティア中心のものよりも川崎市の関与が強い事業をあげるべき。

議長 では、3つ目は青少年科学館。それと、やり方は難しいと思うが、区役所事業というくくりで、中身のある事業をいくつかピックアップしてもらおうということで、以上の4ジャンルを振興会議に候補としてあげることにする。

(以上で会議終了)